

産業医
訪問

第7回

公益財団法人東京都予防医学協会

産業医
川井三恵氏

さまざまな企業で健康管理を实践

私は1987年に東京慈恵会医科大学を卒業し、研修医終了後、15年ほど循環器内科医として同大病院で勤務しました。

その大病院で、高血圧や糖尿病を放置した結果、心筋梗塞などで運ばれて来る多くの患者さんを目の当たりにして予防医学の重要性を感じ、40歳から大手鉄道会社の健康管理センターに、

7年間産業医として大学から出向しました。

その他にも、タイヤ・ゴムメーカーや貿易商社、IT企業など、さまざまな企業の産業医を経験しましたが、産業医として働く際に困ったのは、健康管理にあまり熱心でない会社を担当した時でした。

私が産業医を始めた当時は、まだ過重労働面談が始まったばかりで、うつ症状で出社できない社員が「個人の責任」として片付けられることも多かった時代です。会社側には「病気の従業員が再び働けるように、就労支援を考えましょう」、本人には「治療を受けて、退職せずに復職を目標にしましょう」と働きかけました。

また、安全衛生委員会では、過重労働やパワハラについて理解が得られるように説明しました。今は解説書もたくさん出ていますし、講習会もあります。

当時は、「そういう話をする医者に初めて会った」と言われることもありました。

某広告会社では、締め切りに間に合わせるために「2、3日の徹夜は当たり前。疲れたらその辺で適当に寝る」といった状況でしたので、社員の作業環境を整えることの大切さを訴えて、仮眠室の設置につなげました。

「ブラック企業」という言葉すらなかった時代から産業保健に関わってきたが、今は就労についての法律もずいぶん整備されてきています。

産業医として法律順守をモットーに、これからも会社と社員の橋渡し役にになりたいと思っています。

専門職と連携して健康経営を推進

大学からいただいたご縁で、2017年から東京都予防医学協会(本会)で勤務しています。

本会では総合健診部長を拝命し、健診全般の業務を担当しています。また、循環器専門医として心電図読影や保健会館クリニックで心臓精検(健康診断2次検査)を担当しています。

また、本会の産業医も兼務しています。本会には、事務職員の他に有機溶剤を扱う技師、放射線技師、看護師、レントゲン車や検体回収などの運転業務職員などいろいろな職種があります。その点、これまで多種多様な業種

の産業医を経験したことがとても役立っています。

本会では昨年、理事長の小野良樹が「健康経営宣言」を行いました^{*}。重点施策として、①メンタルヘルス対策の強化②生活習慣病対策の強化③喫煙者ゼロの3点を掲げています。

健康経営推進活動の企画立案・評価および常勤理事会への施策提言等を行う機関として健康経営推進準備室が設置され、職員が安全・安心に、心身ともに健やかに働けるよう、積極的に取り組んでいます。

また、保健師や管理栄養士、健康運動指導士からなる健康増進部が中心となって、ストレッチ教室やウォーキング大会、階段利用の促進など職員の健康増進に取り組んでいます。

こうした活動が認められ、「東京都スポーツ推進企業」、「スポーツエールカンパニー」に認定された他「Sport E-Linkプロジェクト」の企画団体として認められました。

健康支援の取り組みは、産業医と保健師や管理栄養士などが連携することが大切です。産業医として、スタッフと共通の理念で1人ひとりの職員を支援することができるよう、いつも心がけています。

^{*}本会の健康経営の取り組みについてはホームページをご覧ください。

https://www.yobouigaku-tokyo.or.jp/gaiyo/gaiyo_07.html

